

「被爆70周年 2015平和行動 in 広島・長崎北海道統一代表団」を派遣

原子爆弾が投下されて70年目という大きな節目の年を迎える中、連合北海道・原水禁北海道・北海道友愛KAKKINは8月4日～9日の日程で、のべ97名を「北海道統一代表団」として広島・長崎に派遣した。



8月5日の平和ヒロシマ集会で主催者挨拶にたった連合本部神津里季生事務局長は、「連合は世界で唯一の被爆国のナショナルセンターとして、これまで以上に核兵器廃絶に向けた国内世論の喚起に注力するとともに、核兵器の悲惨さと非人道性を広く世界の仲間に訴えていく。」と決意を述べた。



また、現在行われている安保法制に関する国会審議の動向についてふれ、「先月15日、与党が衆議院において安保法案を強行採決したが、安全保障に関わる問題は、憲法との関係や国のあり方に関わる極めて重要な課題。国民の十分な理解のもとで合意形成をはかるべきものであるにも関わらず、昨年7月の一方的な閣議決定に始まり、このたびの関連法案の強行採決という一連の経過は、政権与党の数に力を借りた暴挙と言わざるをえない。戦後70年かけて積み重ねてきた我が国の平和の歩みに逆行するような安保法制の改悪は決して容認できない。」と現政権を強く批判した。

続く「被爆者の訴え」では、被爆直後に約40日間意識不明となり、今もなお多くの病を抱えながら語り継いでいる坪井直さんが当時の惨状を語り、戦争がない社会の大切さを切に訴えた。



続く、8月8日の平和ナガサキ集會では、連合本部古賀伸明会長が主催者挨拶にたち「原爆投下からすでに70年経過し、その脅威を体験された方々の高齢化が深刻化している。こうした現状を踏まえ、連合は若い世代を対象に戦争の悲惨さ、歴史、知識、語り部の皆さんの思いを継承することを目的に様々な取り組みを展開していく。」と述べた。



更に、6日に広島で開催された平和祈念式典で、安倍総理が非核三原則にふれなかったことについて、憶測を含め議論を呼んでいることに対し、「改めて指摘するまでもなく、非核三原則は将来にわたり堅持されなければならない我が国の国是であることを言及しておく。」と連合の考えを示した。

続いて、「次世代への継承」として、第18代高校生平和大使22名が紹介された。連合北海道と退職者連合で構成する北海道高校生平和大使派遣実行委員会を選出した、木根菜恵子さんと谷本愛瑠さんも仲間とともに登壇し、被爆者や戦争体験者の方々から平和のバトンを受け継ぎ世界に広げていく決意を表明した。

また、ピースフラッグリレーとして、連合長崎から連合北海道・根室集會へ、平和の思いとともに旗が引き継がれ



た。

参加者はこれらの集会を通し、戦争の実相、原爆の恐怖を身をもって知る被爆者の言葉の重さを受け止め、平和の実現のため、これを語り継いでいかなければならない責務があることを強く感じた。

統一代表団は広島・長崎においてピース・ウォークに参加するなど、それぞれ学習を深めるとともに、広島では北海道独自企画として原爆死没者慰霊碑への献花を、長崎では被爆地「淵中学校」への墓参を行った。

連合北海道はこれからも核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現をめざし、職場や地域における核兵器廃絶運動に粘り強く取り組んでいく。

